



中国・西安の芸術一家のなかで育ち、オペラ歌手や女優として活躍の後、1990年来日した程万紫さん。長浜市で暮らしはじめて数年間はクラシックの世界から離れていたが、今年8月にソプラノコンサートを開くなど、その活躍が注目されている。

新しい世界を見たかった

芸術一家にお生まれになったとか。

母はオペラ歌手で、父もバイオリンを弾いたり絵を描いたりするのが好きな文化人でした。もしかしたら私も母のお腹の中で舞台上に立っていたかも(笑)。小さいころから歌が好きで、すぐ歌を覚えたそうです。そのころ見た母の舞台の影響は大きいと思います。すごく憧れていましたから。5人姉妹のほとんどが芸術関係で、姉も陝西省歌劇院音楽専門学校のバレエ部に入っていました。私も同じ学校で学生時代から舞台に立つようになったんです。

来日のきっかけは。

卒業後1年間は歌劇院生として働いたんですが、新しい世界を見たくて姉に続いて1990年来日しました。外国の文化や考え方を吸収して、新しい自分を発見したかったです。若かったですね(笑)。日本語は全然分らないし、考え方や生活習慣が違うので、最初は大変でした。気持ちを言葉で表現できない。日本は礼儀正しい国だと聞いていたので、失礼にならないように言葉を選んでいました。日本語は尊敬語とか謙譲語とか難しいでしょう。しばらくは心の目でみなさんを研究して、半年くらい経って勇気をだして話すようになりました。いろいろ勉強させていただき、いまではその奮闘が宝物になっています。

一目惚れして結婚、滋賀県へ

京都の短大では何を専攻されたんですか。

テキスタイルデザインの染色コースで、新しい分野を勉強しました。オペラやクラシックへの憧れもあったのですが、日本では授業料が高すぎたということもあります。また、そのころ父が美術学校の校長になったことも影響して、舞台美術も勉強したくなかったです。

中国の学生と比べていかがでしたか。

競争という雰囲気がなく、みんな穏やかで平

等的なものには驚きました。中国は人口が多いので競争が激しいんです。私はなんでも一番になろうとすることが正しいことだと思ってたので、短大では目立った存在になって恥ずかしかったですね。いまは丸くなりましたが、若いころは過激だったんです(笑)。

そのころはどんなご活躍を。

京都の国際交流イベントで中国民謡を歌ったことをきっかけに、お誘いを受けるようになり、沖縄など全国を回らせていただきました。

このころは、卒業後中国に帰ってオペラを勉強するつもりだったんです。北京音楽大学で声楽部主任の先生が私を待っていてくれたので、すごく行きたかったんですが、だんなさんに会って、一目惚れです(笑)。長浜に嫁いでしまいました。

いちばんの友だち「音楽」に再会

結婚されてからの音楽活動は。

主人が経営するジャズバーの手伝いや出産などもあって、音楽のことはあきらめてたんです。でも、何をやっていても寂しくて…。小さいころから寂しいときや悲しいときの友だちは音楽でしたから、すごく仲のいい友だちに長い間連絡していないという感じでした。結婚したら音楽はできないと自分で自分を束縛してたんです。これまでたくさん失敗してきたんだから、たとえ失敗してもいいという気持ちで1年前に音楽活動を再開しました。お店も子育てでも大変ですが、音楽をしているといきいきとした自分を発見できるんです。

再開のきっかけは。

うちの店で歌うことになった女の子がひとりでは恥ずかしいというので、応援するつもりで私もいっしょに歌おうと思ったんです。そんなとき、知人の音楽教室の先生から、その音楽教室にあるホールで歌うことをすすめていただき、ふたりのコンサートを開くことになりました。

お店や子育てをしながら音楽を続けることは大変ですが、歌っているといきいきとした自分

を発見できるんです。

去年の8月には、オペラの有名な先生が来られる群馬県の草津国際音楽祭にいきました。8年ぶりのクラシックコンサートです。音楽にふれた瞬間、懐かしさに体が震えました。小さいころ聴いた父のバイオリン、母の舞台、家族で開いたコンサート、いろんなことが思い出されて、涙が止まりませんでした。

懐かしい友との再会ですね。

今年の1月に上海に帰って、イタリアでミンゴやパロッチェらと活躍された先生のもとで勉強しました。それで、上海オペラ院の「蝶々婦人」の出演者募集に応募したら、200人のなかから5人までに残ったんです。けっきょく選からもれたんですが、自分では負けてないつもりです(笑)。

音楽活動で人々を励ましたい

県立高校で講師もされていますね。

国際交流に役立てばと、週に2回、中国語を教えています。若い人たちは新しい言葉や文化に出会うと目がいきいきとするんですね。生徒に会うと、こちらにも励まされます。

歌手、講師、母親と大変ではないですか。

中国では女性の社会進出が進んでいますから、社会に出ないと軽蔑されるんです。保育制度も充実していて、女性が働きやすい社会です。男性も料理ができないとオヨメに行けないんですよ(笑)。

日本は少し遅れていますね。

子育てでは女性だけが自分を犠牲にしたりと、まだ女性に対する固定観念が強いんですね。もちろん親子のふれあいは大切ですから、いい面もあるのですが。長浜市長さんとの対談でもお話ししたんですが、これからの若い世代にはもっと女性が働きやすい社会システムがあれば、と思います。

これからの抱負をお聞かせください。

オペラも勉強すればするほど難しく、まだ入口に入ったのですが、その美しさや奥深さを紹介していきたい。できれば年に1回はコンサートをしていきたいですね。ひとりで日本に来て苦労したことをエネルギーにして、新しい世界へ踏み出そうとする人たちを応援していきたいと思っています。中国には60歳から絵を描き始め、有名になった画家がいます。人間はいつから始めても遅くないんです。自分の人生を取り戻すつもりでがんばっていききたいと思います。私のがんばりが誰かの励ましになればいいですね。



プロフィール

1970年3月20日、中国陝西省西安生まれ。1989年陝西省歌劇院音楽専門学校を最優秀で卒業。同年陝西省歌劇院に首席で合格、歌劇院生として活躍。1990年来日、京都YMCAで日本語修得。1994年成安造形短大を卒業。同年結婚、現在一男一女の母。県立北星高等学校と県立翔陽高等学校の中国語講師、ジャズバーVONのママでもある。